

原子力に関する宗教者国際会議 趣意書

宗教者の皆様

東日本大震災救援のために日々祈りを捧げ、それぞれの立場で尽くしておられることと存じます。大切なお働きの上に守りがあり、被災した方々が希望をもって歩むことが出来るよう、祈り続けてまいります。2011年3月11日に発生した東日本大震災以来、原子力に関する根本的な理解の捉え直しを私たちは迫られています。今、宗教者として日本で原子力に関して協議し、提言を発信することができれば素晴らしい、いや、しなければならないという思いから、この「原子力に関する宗教者会議」の開催を計画しました。折しも、2013年にはWCC（世界教会協議会）の7年ごとの総会がソウルで開催されます。その総会に向けての提言を日本から発信したいと願っています。

1. 経緯

2011年5月、ソウルで「日本地震・津波救済に関するエキュメニカル連帯会議」が開催され、NCCJが中心となり、代替エネルギーに関する協議を含む原子力に関する宗教者会議を日本で開催するよう要請がありました。エキュメニカル・パートナーに2011年5月11日付けで発信されたキム・ヨンジュ韓国NCC総幹事の書簡にも、提案8として「信頼しうる代替エネルギー源を求める提案を行う」と明記されています。

また、同年の5月にジャマイカ、キングストンで開催されたWCC（世界教会協議会）のIEPC（International Ecumenical Peace Convocation）にNCCJから2名の代表を派遣し「福島第一メルトダウン」のタイトルでワークショップを行いました。IEPCが発表したメッセージには「The aftermath of earthquake and tsunami in Japan raises urgent questions concerning nuclear energy and threats to nature and humanity」「The nuclear catastrophe of Fukushima has proved once again that we must no longer rely on nuclear power as a source of energy.」と記されました。

2012年3月16日に開催されたNCCJEDRO（NCC震災対策室）運営委員会にキムNCCK総幹事が陪席し、あらためてこの会議開催の要請と、2013年に釜山で開催される第10回WCC総会に提言等を提出できる国際会議となるようにとの希望が述べられました。

2011年10月に沖縄で開催された、仏教等諸宗教を含む「9条アジア宗教者会議」の枠組みを生かした国際会議が可能か、国内諸宗教からも問い合わせがあり、この会議に出席した諸外国代表からも、幅広い宗教者の集まる会議として大変貴重だったとの評価もあり、会議開催に着手しました。

2012年4月24日に諸宗教代表者と共に準備会を立ち上げ、9条アジア宗教者会議に出席した団体から1名の参加を募り、福島での現場研修を含む、被災地近辺での開催が合意されました。

2. 協議内容

多くの痛みを負う中、特に今回の震災で浮上した重大な課題は「原子力」の問題です。技術的、健康的、経済的、政治的なそれぞれの側面から論じられていますが、宗教者としては更に深いところから光を当てて考えねばならないと思います。人間のむさぼり、おごった心が今回の原発事故を引き起こした側面も論じてみるべきだと思います。

まず、会議前日にオプションで被災地に赴き、現状を見て、被災者の生の声を聴き、それを宗教者的心で受け止めることを計画しています。日本国政府の揺れ動く原子力行政により、翻弄されている被災者の生活の実態にふれ、問題を深く把握し、宗教者の提言として世界に発信できればと思います。

会議においては、幼い子どもを持ち、日々放射能汚染と戦いながら生きる母親たちや経済的に大きな損失を受けた酪農家に密着して取材している写真家、心のケアをし続ける地元宗教者等の声を聴き、日本の仏教者であり、核問題を研究する方による基調講演のみならず、チェルノブイリ事故を経て、今もなお放射能問題と向き合うドイツの代表、核エネルギーと原子力に関して課題を見つめる韓国、アメリカ、等、多くの発題をいただき、実りある会議をしていきたく準備中です。

さらに、人間が生きる地球の命との関係にまで協議できれば幸いであると希望しています。人間の命は地球の命と共に生きることによってのみ生かされることを今回の震災で学びました。地球とともに生きる宗教者として、地球の命をともに論じて参りましょう。

既に、世界各地で原子力に関する協議会が持たれたとうかがっています。それらの協議会での成果、声明、メッセージを持ち寄っていただき、今回、日本で持たれる会議の資料とさせて頂ければ、今回の会議はさらに充実したものとなります。事前に資料をお送りくださいされば誠に幸いです。

宗教界全ての皆様の知恵と力を結集していただきたいと願い、この「原子力に関する宗教者国際会議」を計画いたしました。皆様のご参加とご協力をお願ひいたします。

「一人の百歩より、百人の一歩」。宗教者としての一歩をご一緒に踏み出せることを心から願っています。

不安の中に平安を見出し、会議で話し合われた事柄が、将来、最も苦しんだ被災者の皆様の助けとなることを確信しています。